

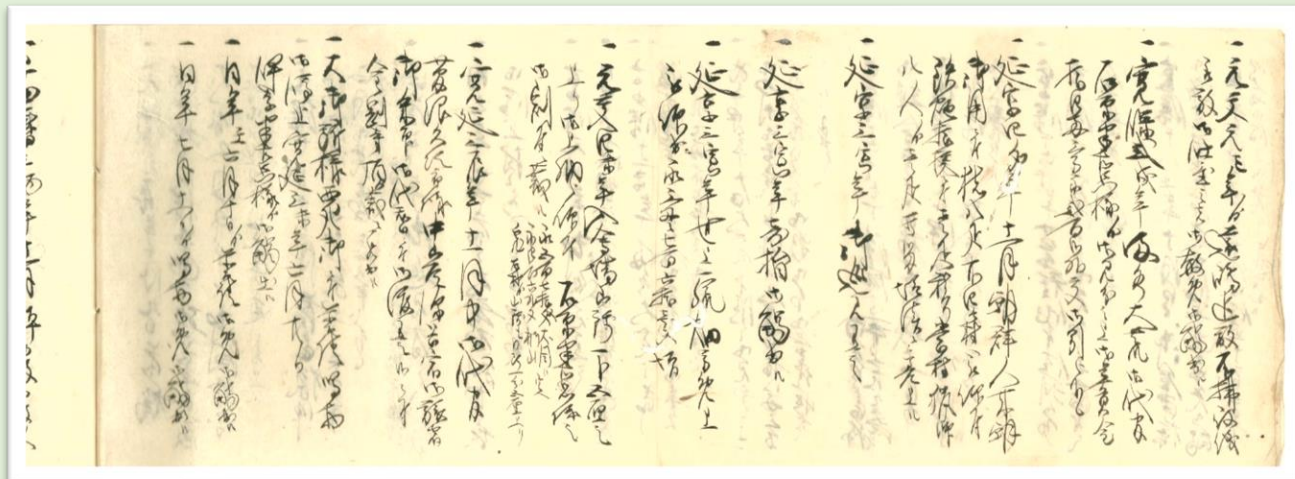
いいづかおる

飯塚馨家文書

飯塚家は戦国期以来の家系で、江戸時代から近代にかけ^{みどの}緑野郡三波川村（藤岡市・旧鬼石町^{おにし}）の村政の中心を担ってきました。飯塚家文書は、①戦国期文書、②三波川村名主文書、③近代三波川村行政文書、④飯塚家私的文書で構成され、**総数20000点を超える文書群**となっています。

①は、天文21年(1552)の北条家朱印状に始まる小田原北条氏・国衆長井氏などから受給した文書で、戦国期の地域社会を知る上で重要な史料です。②は、天正18年(1590)徳川氏の関東入国間もない時期から始まる江戸時代の文書です。幕藩体制成立から崩壊まで、一貫した村の文書がまとまっており、漆生産など山村の独自の生業について多くの情報を含んでいます。③は、飯塚家当主が明治期以降に三波川村戸長^{さんばがわ}、同村長^{こちよう}、初代鬼石町長を務めた関係で同家に伝来しました。

群馬県指定重要文化財に指定されており、戦国期から近現代に至るまでの本県の地域史を検討する上で欠かせない文書群です。



No.2792 「[三波川村公用年代記]」

慶長3年(1598)の検地以来の三波川村の記録が記された重要史料。